

28 年度事業概況の報告

県内の景気の状態をみると、公共投資の生産活動は持ち直し気味、個人消費は横ばいで推移しており設備投資は下げ止まっており、総じて持ち直しの兆がみられると言うものの地域内の景況は依然として厳しい状況が続いた1年となりました。

このような中、以前の日帰り温泉ブームも去り、当館も含めた近隣の日帰り温泉施設においては、入館者数で3年連続の減少が続いている厳しい状況の中にあります。当館も前年度では約12万9千人と過去最低の人数を記録しました。

そこで、今年度はまず、入館者数を減少させない、リピーターを逃がさないことを重点的に取り組みました。前年度より反響が大きかった1枚当り入館料600円の特別回数券の販売、水曜日のポイントカードのポイント3倍デーを通年で実施し、イベント企画委員を立ち上げ、利用者から「何時行ってもイベントをやっている。」と思っただけけるような様々な企画を実施しました。結果、他の施設では今年度も苦戦を強いられている中、当館では4年ぶりに入館者を約1,600人増加して130,714人となりました。

ただ、売上面では、様々な企画を実施したことにより入館者が増加したものの、客単価の減少により前年度から約500万円減少となり、1億9,260万円に留まりました。しかし、販管費については、年度初めに1,000万円の削減計画をたて、それを実行することにより、殆どの科目で削減を見ることができました。特に丸太風呂では温泉水を入れることなどの工夫を実施し、年間約380万円もガス料金の削減ができ、また、館内清掃を取引業者に委託していた部分を自分達の手で行うことで、業者契約解除や契約見直しを進め、清掃費がこちらでも約400万円削減しました。トータルでは削減計画を大きく上回る約1,470万円まで削減金額を伸ばし、過去最小の約1億5,800万円となりました。

その結果、経営状況では、営業損失で前年度約2,350万円の過去最低から努力の結果、損失を半分強まで減少し約1,130万円までとなりましたが、力及ばず今期も当期損失を計上し、1,173万円もの当期純損失を計上する結果となってしまいました。

29年度は新潟市から3年間の指定管理を受けた最終年度です。継続を目指す上で結果が求められる勝負の年となります。オリジナルのメニューを提供するなど独自性を発揮して従業員全員が一丸となり、赤字額の減少、黒字転換にむけ努力すると共に市ご当局に現況をご理解いただき助力をお願いしているところです。新潟市ご当局をはじめ株主各位並びに関係各位の一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上